

電波時計（プログラム報時付掛時計）取扱説明書

取扱説明書番号 M123-CXXW

～ 製品の特長 ～

- 標準電波を受信することによりカレンダーと時刻を自動修正。
- チャイムを任意時刻に鳴らすことができます。（最大12の時刻）

お買い上げいただきありがとうございます。

お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。つぎの記事事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

●修理部品の保有について

この時計の修理用性能部品（電子回路など）は製造打ち切り後、7年間で基準に保有しています。ただし、外装部品（ケース類）の修理には、類似の代替品を使用したり、現品交換させていただくことがあります。

●修理可能期間について

無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料修理が可能です。ただし、修理には販売店と修理工場の往復運賃・諸掛り費用も加わり、商品により修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

●転居または贈答品の場合

転居または遠隔地からの贈答品で、お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。
保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

アフターサービスなどについてご不明なことがありましたらお客様相談室にお問い合わせください。

お問い合わせに際しては、製品番号(型番)「4FN402」をお伝えください。

発売元 **リズム時計工業株式会社**

〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

お問い合わせ先 **お客様相談室 0120-557-005**

受付時間 9:00～17:00（土日、祝日および当社休日を除く）

CITIZEN はシチズンホールディングス株式会社の登録商標です。

(Y0912)

安全にお使いいただくために（はじめにお読みください）

ここに示した注意事項は、あなたや他人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。必ず守ってください。

■表示の説明について

表示内容を無視して、誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、下記の表示で区分して説明しています。

	「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。		してはいけない「禁止」内容です。
	「傷害を負う可能性または物的傷害のみが発生する可能性が想定される」内容です。		必ず実行していただく「強制」内容です。

■誤飲による事故防止について

 小さな部品や電池は、幼児の手の届かぬ所に置かないでください。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

 分解したり改造しないでください。故障の原因になります。

 本製品は精密機器です。落としたりして衝撃を与えないでください。故障や破損の原因になります。

■使用場所について

- 下記のような場所では使わないでください。機械やケース、電池の品質が低下し、精度不良や時計、電池の寿命が短くなります。
- 温度が+50℃以上になる所。例えば、長時間直射日光のあたる所や暖房器具等の熱風や火気に近い所。
- 温度が-10℃以下のあるところでは、プラスチックが劣化したり、電池の性能が低下することがあります。
- 浴室など湿気が多いところ。
- ほこりが多く発生するところ。
- テレビ・OA機器・オーディオのそばなど強い磁気が発生する所。磁力の影響で、時計の進みや遅れが生じたり、止まることがあります。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- 温泉場など、ガスの発生する所。
- 多くの油を使用する所。霧状になった油分がケースや機械部に付着し、汚れや止まりの原因になります。
- 軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ぶれさせておくと、相互に色移りしたり、付着することがあります。

■液晶表示板について

 表示部が破損して液晶が手などについた場合は、石鹸でよく洗い流してください。口や目に入ったときは、すぐに水道水で洗い流し、すぐに医師の治療を受けてください。

お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどのよごれ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により、時計や掛けた壁面が汚れることがありますので、定期的に汚れを落としてください。

時計の廃棄

- お住まいの地区自治体の指定にしたがってください。

静電気による誤作動について

静電気の影響により、正常に機能しなくなることがあります。このようなときには、強制受信ボタンを押してください。

Q&A このようなときには

時計・分針・秒針が反時計回りに動いたり、早送りで針が動いたままになる。

電池の残量が少なくなると、誤作動の原因になります。特に「強制受信ボタン」を押したとき、あるいは自動受信したときに発生しやすくなります。このようなときには、新しい電池と交換してください。

指定した時刻にチャイムが鳴らない。

- チャイムの時刻設定で、午前・午後の指定はあっていますか。
- 報時切替スイッチは「プログラム」になっていますか。
- ボリュームの調節は適切ですか。

受信できなくてもチャイム機能は使えますか？

電波を受信できる、できないに関係なくご利用いただけます。
受信できない場合は、手動で現在時刻を合わせてからお使いください。

自動受信する時刻は？

12時16分40秒から1時間ごとに4回行います。

電波時計について

電波時計とは

電波時計は、正確な時刻およびカレンダー情報をのせた標準電波を受信することにより、自動的に表示時刻を修正し正確な時刻をお知らせする時計です。

標準電波とは

標準電波(JJY)は、日本標準時(JST)をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局：おおたかどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2カ所あります。

標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。
(http://jjy.nict.go.jp)

標準電波の送信停止について

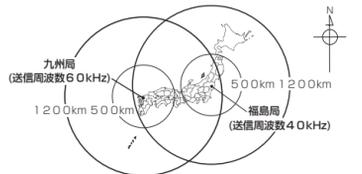
送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外で使用した場合、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがありますので、海外での使用はお勧めできません。

電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。



この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

電波を受信しにくい環境

つぎのような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きるところ
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの地下など
- 高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く



電池のご注意（電池の正しい使い方）

電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス(+)、マイナス(-)を間違えない。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。
- 時計が動いていても定期的に交換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。
- 幼児の手が届かないところに置く。

電池の種類について

- 本製品は電池の特性に合わせて設計されています。指定以外の電池では、製品仕様を満たさない場合や正常に機能しないことがあります。
- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。⚠️ **アルカリとマンガン乾電池の混在使用は液もれの原因となりますのでおやめください。**
- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。
- 一部の高性能電池では、初期電圧が高く時計には不向きなものがあります。
(例：Panasonic オキシライド乾電池)

取り扱いについて

- 電池からの液もれや発熱、破裂を防止するために、つぎのことをお守りください。
- 電池に傷をつけたり、分解しない。
 - 電池を充電しない。
 - 電池をショートさせない。
 - 時計を使用しないときは電池を取り外す。
 - 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。

液もれが起きてしまったとき

 電池からもれた液が目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療をうけてください。アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。

 もれた液に直接触れないでください。特にアルカリ乾電池には注意してください。ゴム手袋をして電池をはずし、もれた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときはお買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

電池の寿命について

- 付属の電池は、工場出荷するときに入れていますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。
- 使用環境の温度などにより、製品仕様より電池寿命が短くなる場合があります。
- 買い置きの電池を使用した場合、保管状態や乾電池に示されている「使用推奨期限」により、電池寿命が短くなる場合があります。

電池の廃棄

- お住まいの地区自治体の指定にしたがってください。

 火に入れると破裂の原因となり危険です。

◆ 電池の交換 早めに交換して液もれを防ぎましょう

 電池からの液もれにより、時計の修理や壁面の修繕などに費用が発生することがあります。

注意 電池からの液もれや発熱、破裂を防止するためにつぎのことをお守りください。

- 時計が停止したときは、速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
- 時計が動いていても3年に1回定期的に交換する。
- 古い電池と新しい電池、マンガン乾電池とアルカリ乾電池を混在して使用しない。
- 電池の⊕⊖を逆に入れない。



おもな製品仕様

時間精度	標準電波受信直後の表示精度 秒針・デジタル表示 ±1秒 時針/分針 目盛りに対して±3度 標準電波を受信しないとき 平均月差±20秒（常温中のクォーツ精度）	報時機能	報時精度 表示時刻に対して±1秒 報時形式 毎正時/プログラム 選択式 報時音 毎正時 数取り プログラム ウェストミンスターチャイム
使用温度範囲	-10℃～+50℃ 液晶表示可読範囲 0～40℃	チャンネル数	Ch1～12
使用電池	単2形アルカリ乾電池 JIS規格 LR14 4個	音量調節	ロータリー式ボリューム
電池寿命	約3年間 チャイムを1日12回最大音量で鳴らした場合	試験機能	モニターボタン操作で可能
表示機能	アナログ：指針による時刻表示 デジタル：西暦年、月日、時刻から選択		
暗所停止	明暗センサーに連動して、秒針、毎正時の報時停止		
電波機能	標準電波によりカレンダー時刻自動修正		
受信回数	4回/日		
受信局	福島局/九州局 自動選択		

※製品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

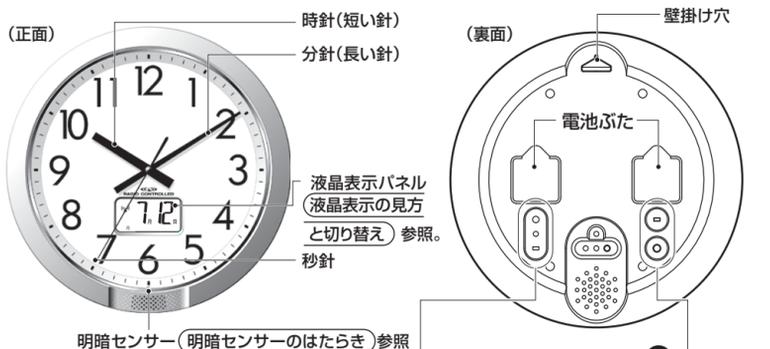
付属品

木ねじ	1個	単2形アルカリ乾電池	4個
取付金具	1個	取扱説明書	本書
くぎ(取付金具用)	4個	保証書	1枚

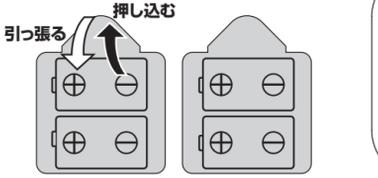
この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。

本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなんら責任を負いません。

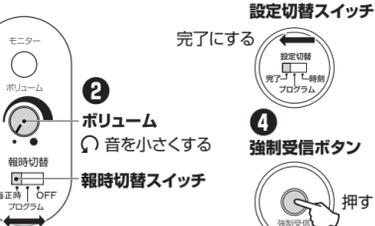
※図は操作説明用ですので、実際の商品と異なる場合があります。



③【電池の入れ方】



単2形アルカリ電池を4個入れる
電池ぶたを取るときは引っ張り、取り付けるときは押し込んでください。
電池の⊕⊖を逆向きに入ると、電池からの液もれ、発熱、破裂の原因になります。



針の動き……通常の時刻表示
時計・分針 : 10秒に1回動く
秒針 : 1秒ステップ
※自動受信により、時刻を修正するときは早送りや移動したり、停止することがあります。

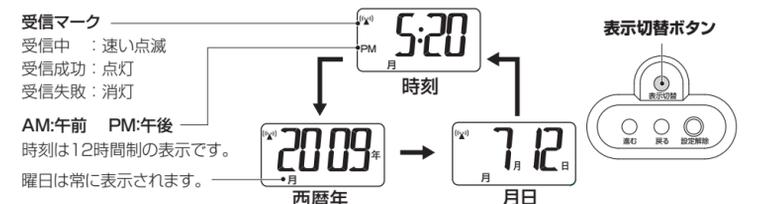
【電波受信の流れ】 受信マークの見方



※受信に失敗している場合、時刻は正しくありません。
※受信に成功してもノイズにより誤った時刻を表示することがあります。このようなときには、強制受信ボタンを押して再度受信させてください。

液晶表示の見方と切り替え

設定切替スイッチが「完了」のとき、表示切替ボタンを押すと、時刻・西暦年・月日の順に表示内容を切り替えることができます。



報時音の試聴と音量調節

報時機能を使用するときには、事前に音量を調節してください。

報時音の試聴
モニターボタンを約1秒間押しつづけると報時をします。
報時音は、報時切替スイッチの設定位置に対応して鳴ります。
※報時切替スイッチがOFFのときは鳴りません。

音量の調節
モニターボタンを約1秒間押しつづけて報時音を鳴らし、鳴っている間にボリュームを調節します。

明暗センサーのはたらき……暗くなると報時と秒針が止まる

明暗センサーにより、暗くなると秒針を12時位置で停止させ、報時を停止させます。
昼間や夜間の照明時などでも明るさが不足すると明暗センサーが反応します。
※秒針が停止している間も時・分針は正しい時刻を示しています。
※明るくなると、再び秒針が正しい時刻に早送りや復帰します。
※報時切替スイッチが「プログラム」のときには、暗くても報時をします。

時計の掛け方

掛け方が不適切な場合、時計が落下する危険があります。

- 垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れる恐れがあります。
- 掛けるときは、上下、左右に軽く動かして、掛け具(木ねじや取付金具)に壁掛け穴がしっかり掛かっていることを確認してください。
- 市販の掛け具を使用するときには、壁掛け穴にしっかり掛かるものを選んでください。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらないところに設置してください。

木の柱または木質の厚い壁面の場合

- 付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。
- 木ねじは下図の通り、壁面にしっかりねじ込んで固定してください。



石こうボードの壁面の場合

- 付属の取付金具を使用できる場所は、石こうボードの壁面です。
- 取付金具は下図の通り、付属のクギ4本でしっかり固定してください。

取り付け方 取付金具 タイプA
金具を水平にして①②の順序でクギを打つ。

取付金具 タイプB
クギ 取付金具の穴に対して、垂直に押し込む
石こうボードの壁面

- 壁の材質、取り付け方法を確認の上ご使用ください。
- 付属する取付金具のタイプに応じた取り付けをしてください。
- 取付金具は水平に取り付けてください。傾けて取り付けたら時計が傾きます。
- クギは取付金具の穴に対して、垂直に押し込んでください。
- 取付金具には、3.5kg以上のものは掛けないでください。

その他の壁面の場合

●コンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、両面テープ式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。

1. 電池を入れて時刻を合わせる

標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせるときは、
④ 標準電波を受信できない場合 の「手動での時刻合わせ」を参照してください。

○電波の受信しやすい窓際などでご使用ください。

- 裏面の設定切替スイッチを「完了」の位置にする
※この位置以外では受信が行えません。
 - ボリュームを左に回して操作中に大きな音が鳴らないようにする
 - 電池を入れる………【電池の入れ方】参照
電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて4個の単2形アルカリ乾電池を入れます。
時計・分針・秒針は、電池を入れてもすぐには動きません。
 - 強制受信ボタンを押して受信を開始する………【電波受信の流れ】参照
○受信中はボタン操作をしないでください。
○針は停止したままですが故障ではありません。
○電池を入れた直後や設置場所を変えたときなどは、必ず強制受信ボタンを押してください。
 - 時計を掛ける
【時計の掛け方】に従い、時計を確実に掛けてください。
 - 受信を開始してから約18分後に受信結果を確認する
④受信マークの状態を確認します。
受信成功：点灯→正しい時刻を表示します。
受信失敗：消灯→④ 標準電波を受信できない場合へ。
- 報時切替スイッチを設定
報時切替スイッチを目的に応じて設定してください。
報時切替スイッチを「プログラム」で使用する場合は、必ず 2. チャイム時刻の設定 に従って、チャイムを鳴らす時刻を設定してください。
- 毎正時 : 毎正時に、時刻に対応した数で時刻をお知らせします。
プログラム : 事前に設定された時刻にウェストミンスターチャイムを鳴らします。
OFF : 報時機能を停止します。

2. チャイム時刻の設定

チャイムは、チャンネルCH1からCH12まで12の時刻を設定することができます。
設定時刻は、液晶表示パネル上にCH1～CH12の表示とともに表示されます。

チャイムを鳴らす時刻の設定手順

- 設定切替スイッチを「プログラム」にする。
- 表示切替ボタンで使用するチャンネルを選択。
- 「時」を設定して表示切替ボタンを押す。
- 「分」を設定して表示切替ボタンを押す。→②へ
- 設定を終えるときは設定切替スイッチを「完了」にしてください。

「時」「分」は、進む/戻るボタンで設定します。進む/戻るボタンは、押しつづけると数値が早く変わります。

「チャイム時刻の設定」や「手動での時刻合わせ」をした後は、必ず、設定切替スイッチを「完了」に戻してください。
他の位置では、電波の自動受信ができなくなります。
また、針が止まったままになることがあります。

チャンネルを設定するときには、事前に鳴らしたい時刻とチャンネルの対応表を作成しておくことで作業がしやすくなります。

チャンネルを選択するには (設定内容を見るには)

- 設定切替スイッチを「プログラム」にします。
→CH1が表示されます。
時刻がすでに設定されているときには、「時」が点滅します。
- 表示切替ボタンを押すたびにCH2…CH12, CH1…の順で変わります。
※表示切替ボタンを押しつづけても早送りはしません。

チャンネルに時刻を設定するには

操作例：CH1の時刻をPM12:45に設定

- チャンネルを選択します。
- 進むまたは戻るボタンを押して、時を「12」に合わせて表示切替ボタンを押す。→「分」が点滅します。
※AM/PM表示に注意して合わせてください。
- 進むまたは戻るボタンを押して、分を「45」に合わせて表示切替ボタンを押す。→つぎのチャンネルへ切り替わります。

チャンネルに設定されている時刻を解除するには

- チャンネルを選択します。
- 設定解除ボタンを押します。

チャンネルの設定または内容確認を終了するには

設定切替スイッチを「完了」にします。
※「時」または「分」の設定途中で設定切替スイッチを動かすと、表示チャンネルの内容は、更新されません。

④ 標準電波を受信できない場合

- 朝までそのまましておく
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくと受信できる可能性が高くなります。1～2日後に受信結果を確認してください。
- 場所を変える/受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎわで、取扱説明書の日本地図を参考にして時計の正面または裏面が電波の送信所に向くようにして、強制受信ボタンを押して再度受信を行ってください。
- 時刻を合わせ使用する
ベランダなどの屋外で電波の受信に成功させるか、手動で時刻を合わせて使用してください。
電波が受信できないときの時間精度は、クォーツ精度になります。

受信できない場合は、手動で日付と時刻を合わせることができます。

手動での時刻合わせ

- 表示切替ボタン 設定切替スイッチ 進む/戻るボタン
※受信マークが点滅しているときや針が速く回っている間は、手動で時計を操作することはできません。
※「時」または「分」を変更すると時計・分針・秒針が停止します。
操作例 2010年7月12日(日) PM(午後)5時20分に設定
- ①設定切替スイッチを「時刻」にします。→西暦年が点滅表示
- ②「進む」または「戻る」ボタンを押して、西暦年を「2010」に合わせて表示切替ボタンを押します。
- ③「進む」または「戻る」ボタンを押して、月を「7」に合わせて表示切替ボタンを押します。
- ④「進む」または「戻る」ボタンを押して、日を「12」に合わせて表示切替ボタンを押します。
- ⑤「進む」または「戻る」ボタンを押して、時を「5」に合わせて表示切替ボタンを押します。→西暦年が点滅表示
- ⑥「進む」または「戻る」ボタンを押して、分を「20」に合わせて表示切替ボタンを押します。→西暦年が点滅表示
- ⑦設定切替スイッチを「完了」にします。
「完了」にしたときに0秒に設定され、針が早送りして時刻を示します。
※設定切替スイッチを他の位置にすると、その時点での内容に更新されます。
※手動で時刻合わせをしても、その後、受信に成功すると自動的に時刻・カレンダーを修正します。